

CASBEE® 新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	ダイレックス新松崎店	
建設地	新潟市東区新松崎三丁目 102番1 外23筆	
用途地域	第1種住居地域	
建物用途	物販店,	
竣工年	2024年1月 竣工	
敷地面積	5,932.15 m ²	
建築面積	2,211.33 m ²	
延床面積	2,191.81 m ²	
階数	地上1F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2023年5月7日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{40.4}{34.7} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.2		バリアフリー計画	Q2.1.1.3 3.0
			維持管理	Q2.1.3 3.5
			設備の更新性	Q2.3.3 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.7		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1 3.0
			信頼性	Q2.2.4 2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1 2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1 5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.0		節水	LR2.1.1 1.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4 1.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6 4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	1.5		生物環境の保全と創出	Q3.1 1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2 2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2 2.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1 3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。
- ・メンテナンス性に配慮した内外装計画とした。
 - ・主要設備機器は屋外に設置し、バックアップ設備・メンテナンスのための十分なスペースを確保した。

CASBEE® 新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ダイレックス新松崎店	階数	地上1F
建設地	新潟市東区新松崎三丁目102番1 外23筆	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,745 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年1月 竣工	評価の実施日	2023年5月7日
敷地面積	5,932 m ²	作成者	中西 宏臣
建築面積	2,211 m ²	確認日	
延床面積	2,192 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.6**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.6**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺環境に圧迫感を与えない配置計画とした。 建物内は空間にゆとりを持たせ、将来的な変更等に対応可能な仕様とした		その他 特になし
Q1 室内環境 内装材についてはほぼすべてにF☆☆☆☆建材を採用しシックハウス対策に配慮した。	Q2 サービス性能 マチナシ性に配慮した内外装計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 空地率を60%以上確保し周辺環境に圧迫感を与えないような配置計画とした。
LR1 エネルギー 建物外皮はグラスウール断熱材を敷設し熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 内装は躯体+軽量鉄骨材下地+仕上材の構成とし分別のし易さに配慮した。	LR3 敷地外環境 来客数に対応できるように、相応の駐車台数、駐輪台数の確保を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される